


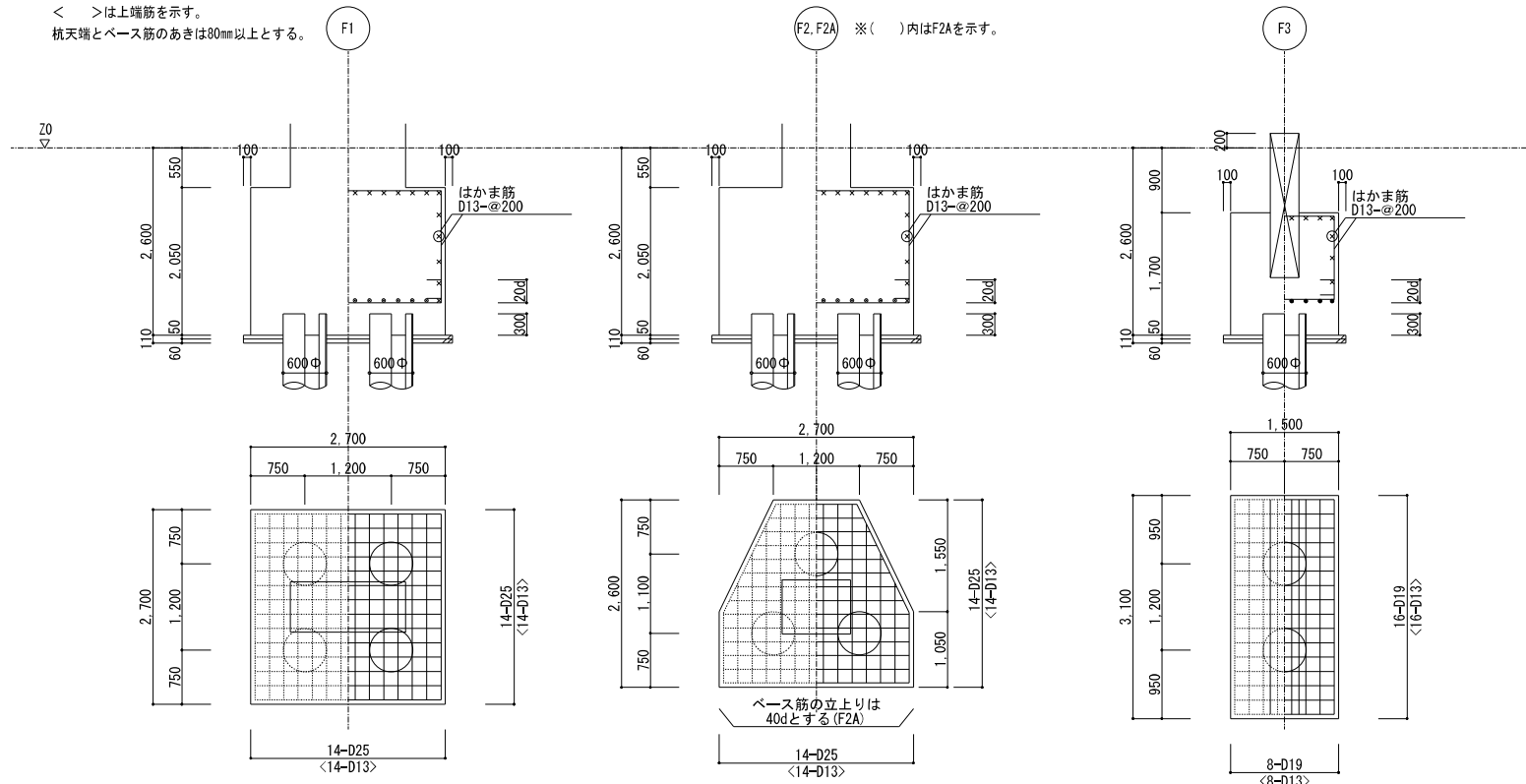


- 注) 特記なき限り下記とする。
1. トはスリット位置を示す。
 2. 壁はW12とする。
 3.  部分は、梁+200増打を示す。
 4.  部分は、梁増打を示す。
 5.  部分は、土間コンクリートを示す。

株式会社 ERCデザイン	株式会社 岩崎設計事務所	東浦住宅建築工事 (第19工区)	図面番号
構造設計一級建築士証交付番号 第3860号	一級建築士登録 第66771号 岩崎 征一	西 様 軸組図(2)	S-8 1/200
一級建築士登録番号 第256338号 池田 寛彦	検 図	設 計 R25年2月	愛知県建設部建築担当局公営住宅課

基礎詳細図 S=1/50

< >は上端筋を示す。
杭先端とベース筋のあきは80mm以上とする。



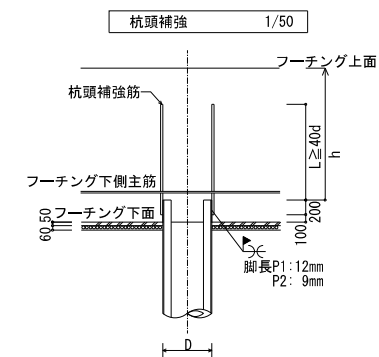
基礎梁リスト 1/50

特記なき巾止め筋はD10-@1000とする。

符号	FG1	FG2	FG3		FG4	FCG1
位置	全断面	全断面	外端・中央	内端	全断面	全断面
断面						
b x D	700 x 2400	700 x 2400	700 x 2400		700 x 2400	400 x 1500
上端筋	11-D35	12-D35	17-D35	11-D35	12-D35	3-D22
下端筋	11-D35	12-D35	17-D35	11-D35	12-D35	3-D22
STP	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@100		□-D13@150	□-D13@200
腹筋	10-D13	10-D13	10-D13		10-D13	6-D13

符号	FB1	FB2	FCB1
位置	全断面	全断面	全断面
断面			
b x D	300 x 1350	400 x 2000	400 x 1500
上端筋	3-D22	4-D25	3-D22
下端筋	3-D22	4-D25	3-D22
STP	□-D10@200	□-D13@200	□-D13@200
腹筋	6-D13	10-D13	6-D13

杭仕様								
工法 プレボーリング拡大根固め工法 (大臣認定工法 Hyper-MEGA工法、又は同等性能以上の認定工法)								
杭の継手は無溶接工法とする。杭先端レベルは、フーチング底より300mm上がった位置とする。								
杭施工完了後、充填液が上部まで上がってきているかを確認し、上がってきていなければセメントミルクを上部まで充填すること。								
符号	記号	杭種 (上杭)	杭種 (下杭)	杭耐力 (長期) (kN/本)	拡大掘削率 (ω)	根固め長 (m)	杭頭補強筋	杭本数
P1	○	SC杭105φ600 (SKK490 t=12.0 105N) 5.0m	JP-NPRC105φ650-500-600 (Ⅲ種 105N) 6.0m	2300	1.00	2.0	19-D32	60
P2	○	SC杭105φ600 (SKK490 t=9.0 105N) 5.0m	JP-NPH105φ600-450-600 (A種 105N) 6.0m	2000	1.00	2.0	13-D32	2
小計								62



構造特記			
コンクリート	躯体	5F柱~RF梁 $F_c = 27N/mm^2$ (設計強度)	水セメント比: 50%以下
		2F柱~5F梁 $F_c = 30N/mm^2$ (設計強度)	スランプ: JASS5による
		1F柱~2F梁 $F_c = 33N/mm^2$ (設計強度)	コンクリート中の単位水量: 185kg/m以下
		基礎 $F_c = 33N/mm^2$ (設計強度)	コンクリート中の空気量: 4%~6%
鉄筋	土間	$F_c = 18N/mm^2$ (設計強度)	
	捨て	$F_c = 18N/mm^2$ (設計強度)	
	D16以下 SD295A 重ね継手 (JIS規格品)		※せん断補強筋の一部をD13(SD345)とする。

- コンクリート施工計画
- 打込み、締め固め
 - 打継ぎ部処理方法
 - 養生方法
 - 型わく及び支柱の除去
- 構造部材等の耐久性 (基準法適合)
- 構造部材の耐久性が令第37条に適合
 - コンクリートの材料が令第72条に適合
 - コンクリートの強度が令第74条に適合
 - コンクリートの養生が令第75条に適合
 - 鉄筋のかぶり厚さが令第79条に適合
 - 構造方法に関する補足基準、令第80条の2に適合
 - 平成13年国交省1025号に適合

鉄筋の最小かぶり厚さ			
			最小かぶり厚さ
土に接しない部分	耐力壁以外の壁・床	屋内	20
		屋外	30
	耐力壁・柱・梁	屋内	30
		屋外	40
土に接する部分	柱・梁・床・基礎立上がり部分	40	
	基礎 (立上がり部分を除く)	60	

※設計かぶり厚さは上記+10mmとする。
(設計かぶり厚=鉄筋加工寸法 (スベサ-管理値) とする。)

U: ウルボン SPDP1275

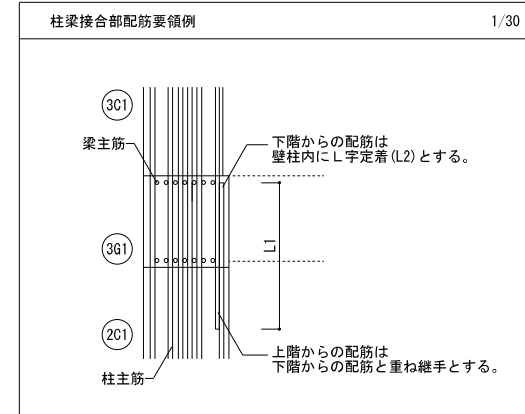
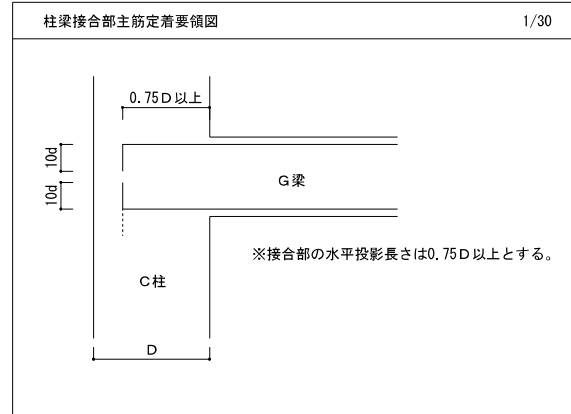
株式会社 ERCデザイン	株式会社 岩崎設計事務所	東浦住宅建築工事 (第19工区)	図面番号
構造設計一級建築士証交付番号 第3860号	一級建築士登録 第66771号	西棟	S-9
一級建築士登録番号 第256338号 池田 寛彦	岩崎 征一	杭、基礎、基礎梁リスト図	1/50
設計 池田 寛彦	図面 岩崎 征一	愛知県建設部建築局公営住宅課	

・特記なき腹筋は2-D10、中止め筋はD10-@1000とする。
 ・特記なき限り、柱梁接合部の水平投影長さは0.75D以上とする。

・R階G1、G2、G3の壁柱フェースから1.50の範囲のSTPは□-D13@100以下とする。
 ・本図の他、中空スラブ図面(S-14)により、ねじれ補強筋及び腹筋を配筋すること。

符号	G1	G2	G3	G4	G5
位置	全域	全域	全域	全域	全域
8階 (Fc27)					
b x D	500 x 750	500 x 750	500 x 750	180 x 700	400 x 700
上端筋	8-D25	9-D25	8-D25	2-D19	3-D22
下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	2-D19	3-D22
STP	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	∑-D13@200	□-D13@200
腹筋				壁横筋と同等	
7階 (Fc27)					
b x D	550 x 750	550 x 750	550 x 750	180 x 700	400 x 700
上端筋	7-D29	9-D29	8-D29	2-D19	3-D22
下端筋	5-D29	5-D29	5-D29	2-D19	3-D22
STP	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	∑-D13@200	□-D13@200
腹筋				壁横筋と同等	
6階 (Fc27)					
b x D	550 x 750	550 x 750	550 x 750	180 x 700	400 x 700
上端筋	8-D29	9-D29	8-D29	2-D19	3-D22
下端筋	5-D29	5-D29	5-D29	2-D19	3-D22
STP	□-U12, 6@100	□-U12, 6@100	□-U12, 6@100	∑-D13@200	□-D13@200
腹筋				壁横筋と同等	
5階 (Fc30)					
b x D	600 x 750	600 x 750	600 x 750	180 x 700	400 x 700
上端筋	9-D29	10-D29	11-D29	2-D19	3-D22
下端筋	5-D29	5-D29	6-D29	2-D19	3-D22
STP	□-U12, 6@100	□-U12, 6@100	□-U12, 6@100	∑-D13@200	□-D13@200
腹筋				壁横筋と同等	
4階 (Fc30)					
b x D	650 x 750	650 x 750	650 x 750	180 x 700	400 x 700
上端筋	9-D29	11-D29	12-D29	2-D19	3-D22
下端筋	6-D29	6-D29	8-D29	2-D19	3-D22
STP	□-U12, 6@100	□-U12, 6@100	□-U12, 6@100	∑-D13@200	□-D13@200
腹筋				壁横筋と同等	
3階 (Fc30)					
b x D	700 x 750	700 x 750	700 x 750	180 x 700	400 x 700
上端筋	8-D29	12-D29	14-D29	2-D19	3-D22
下端筋	7-D29	7-D29	8-D29	2-D19	3-D22
STP	□-U12, 6@100	□-U12, 6@100	□-U12, 6@100	∑-D13@200	□-D13@200
腹筋				壁横筋と同等	
2階 (Fc33)					
b x D	700 x 750	700 x 750	700 x 750	180 x 700	400 x 700
上端筋	7-D29	9-D29	9-D29	2-D19	3-D22
下端筋	7-D29	7-D29	7-D29	2-D19	3-D22
STP	□-U12, 6@100	□-U12, 6@100	□-U12, 6@100	∑-D13@200	□-D13@200
腹筋				壁横筋と同等	

符号	G1	G2	G3	G4	G5
位置	全域	全域	全域	全域	全域
R階 (Fc27)					
b x D	450 x 950	450 x 950	450 x 950	400 x 500	400 x 500
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25	3-D22	3-D22
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	3-D22	3-D22
STP	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
腹筋				壁横筋と同等	
9階 (Fc27)					
b x D	500 x 750	500 x 750	500 x 750	180 x 700	400 x 700
上端筋	5-D25	6-D25	5-D25	2-D19	3-D22
下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	2-D19	3-D22
STP	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	∑-D13@200	□-D13@200
腹筋				壁横筋と同等	



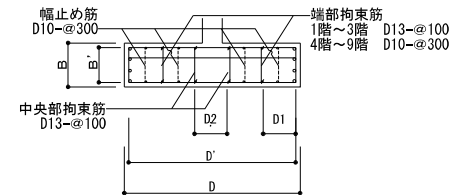
株式会社 ERCデザイン	株式会社 岩崎設計事務所	東浦住宅建築工事 (第19工区)	図面番号
構造設計一級建築士証交付番号 第3860号	一級建築士登録 第66771号 岩崎 征一	西 様 大梁リスト図	S-10
一級建築士登録番号 第256338号 池田 寛彦	検 図	設計 R25年2月	縮尺 1/50
愛知県建設部建築局公営住宅課			

符号	C1	C2	C3
6階 (Fc27)			
b x D	1600x550	950x750	950x600
主筋	10-D29+12-D16	12-D25+6-D16	12-D25+6-D16
帯筋	田 -D13-@100	□ -D13-@100	□ -D13-@100
幅止め筋			
5階 (Fc27)			
b x D	1600x550	950x750	950x600
主筋	10-D29+12-D16	12-D25+6-D16	12-D25+6-D16
帯筋	田 -D13-@100	□ -D13-@100	□ -D13-@100
幅止め筋			
4階 (Fc30)			
b x D	1600x600	950x750	950x650
主筋	16-D29+12-D16	14-D25+6-D16	14-D25+6-D16
帯筋	田 -D13-@100	田 -D13-@100	田 -D13-@100
幅止め筋			
3階 (Fc30)			
b x D	1600x650	950x750	950x650
主筋	22-D29+12-D16	14-D25+6-D16	14-D25+6-D16
帯筋	田 -D13-@100 (SD345)	田 -D13-@100	田 -D13-@100
幅止め筋			
2階 (Fc30)			
b x D	1600x700	950x750	950x700
主筋	24-D32+12-D19	14-D25+6-D16	14-D25+6-D16
帯筋	田 -U12.6-@100	田 -D13-@100	田 -D13-@100
幅止め筋			
1階 (Fc33)			
b x D	1600x700	950x750	950x750
主筋	16-D32+12-D19	18-D25+6-D16	18-D25+6-D16
帯筋	田 -U12.6-@100	田 -D13-@100	田 -D13-@100
幅止め筋			

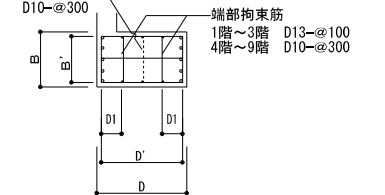
符号	C1	C2	C3
9階 (Fc27)			
b x D	1600x450	950x750	950x500
主筋	8-D29+12-D16	10-D25+6-D16	10-D25+6-D16
帯筋	田 -D13-@100	□ -D13-@100	□ -D13-@100
幅止め筋			
8階 (Fc27)			
b x D	1600x500	950x750	950x500
主筋	10-D29+12-D16	10-D25+6-D16	10-D25+6-D16
帯筋	田 -D13-@100	□ -D13-@100	□ -D13-@100
幅止め筋			
7階 (Fc27)			
b x D	1600x500	950x750	950x550
主筋	10-D29+12-D16	10-D25+6-D16	10-D25+6-D16
帯筋	田 -D13-@100	□ -D13-@100	□ -D13-@100
幅止め筋			

壁柱の配筋要領

・中柱



・外柱



・最上階柱主筋は全てフック付とし、フックは梁主筋より上側に配筋する。

・柱梁接合部帯筋は下階柱帯筋と同径、同材質とし、間隔は1.5倍以下とする。(端部拘束筋、中央部拘束筋、幅止め筋を含む)

株式会社 ERCデザイン	株式会社 岩崎設計事務所	東浦住宅建築工事 (第19工区)	図面番号
構造設計一級建築士証交付番号 第3860号	一級建築士登録 第66771号 岩崎 征一	西 様	S-11
一級建築士登録番号 第256338号 池田 寛彦	図 1/50	柱リスト図	
図 第256338号	設計 N25年2月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

小梁・片持梁リスト 1/50

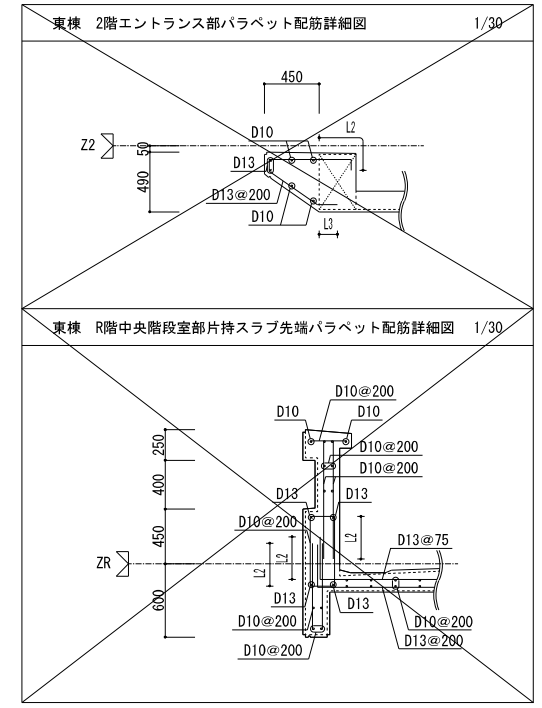
符号	西棟						東棟																			
	B1		CB1		CB2	CG1	B11		B12	B13		B21	B22	B23			CB11	CB12	CG11							
位置	他端・中央	X2, X7端	基端	先端	全断面	全断面	他端・中央	X2, X6端	全断面	両端	中央	全断面	全断面	左端	中央	右端	基端	先端	全断面	全断面						
断面																										
b×d	350×650		250×600	250×300	300×450	300×500	350×650		250×500	250×500		300×450	300×450	300×450			250×600	250×300	300×450	300×500						
上端筋	3-D22	4-D22	4-D22	2-D22	3-D22	4-D22	3-D22	4-D22	2-D16	2-D16	2-D16	3-D19	6-D22	3-D25	3-D25	3-D25	4-D22	2-D22	3-D22	4-D22						
下端筋	3-D22	3-D22	2-D22	2-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	2-D16	2-D16	2-D16	3-D19	5-D22	3-D25	3-D25	3-D25	2-D22	2-D22	3-D22	4-D22						
STP	□-D10@200		□-D10@150		□-D13@100	□-D13@100	□-D10@200		□-D10@200	□-D10@200		□-D10@200	□-D10@200	□-D13@100			□-D13@200	□-D10@150	□-D13@100	□-D13@100						
腹筋	2-D10		2-D10		4-D22		2-D10														2-D10		4-D22			

- 特記なき限り下記とする。
- 腹筋は2-D10、巾止め筋はD10@1000とする。
 - B21について、柱に取付く箇所は大梁の仕口として柱内に定着する。
B22の先端に取付く箇所は片持先端小梁の定着による。
 - B22について配筋は直交する小梁の外側とすること。
G21との取合いは小梁の標準配筋図に準じ、直交するB23に対しては、定着させず通し配筋とすること。
 - B23について端部は大梁の配筋標準図に準じて柱内に定着すること。
B23に定着はせず通し配筋とすること。
 - CB1, 2, 11, 12の基端は片持階段の配筋に準ずる。
CB11, 12の柱への定着において水平投影長さは0.75dとする。
 - CB1, 11のカットオフ筋の長さは、L/2+15dとする。
 - CB2, 12の腹筋はL2定着とする。

スラブリスト 1/50

特記なき腹筋は2-D10、巾止め筋はD10@1000とする。

符号	スラブ厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
			端部	中央	端部	中央	
S1	150	上端筋	D13@200	←	D10、13@200	←	
		下端筋	D10、13@200	←	D10、13@200	←	
S2	200	上端筋	D13@200	←	D13@200	←	
		下端筋	D10、13@200	←	D10、13@200	←	
S3	150	上端筋	D10@200	←	D10@200	←	
		下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
S4	250	上端筋	D13@200	←	D13@200	←	
		下端筋	D13@200	←	D13@200	←	
S5	180	上端筋	D10、D13@200	←	D10@200	←	
		下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
CS1	150~200	上端筋	D13@100	←	D10@200	←	
		下端筋	D13@200	←	D10@200	←	
CS2	150~200	上端筋	D13@75	←	D10@200	←	
		下端筋	D13@200	←	D10@200	←	
CS2A	150~220	上端筋	D13@75	←	D10@200	←	
		下端筋	D13@200	←	D10@200	←	
CS3	130~200	上端筋	D13@150	←	D10@200	←	配筋筋は標準配筋図に準じて壁内に定着すること。
		下端筋	D13@200	←	D10@200	←	
CS4	130~200	上端筋	D13@100	←	D10@200	←	渡り廊下出隅部の主筋はC14に定着すること。
		下端筋	D13@200	←	D10@200	←	
CS5	130~200	上端筋	D13@100	←	D10@200	←	配筋筋は標準配筋図に準じて壁内に定着すること。
		下端筋	D13@200	←	D10@200	←	
CS6	130~200	上端筋	D16@100	←	D10、D13@200	←	
		下端筋	D13@100	←	D10、D13@200	←	
CS7	180	上端筋	D13@100	←	D10@200	←	
		下端筋	D13@200	←	D10@200	←	
CS8	150	上端筋	D13@100	←	D10@200	←	
		下端筋	D13@200	←	D10@200	←	
CS9	200	上端筋	D13@100	←	D10@200	←	CS2Aとの交差部の主筋はC14に定着すること。
		下端筋	D13@200	←	D10@200	←	
CS10	250~320	上端筋	D13@200	←	D10@200	←	
		下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
		上端筋					
		下端筋					



壁リスト 1/50

特記なき限り、ダブル配筋は縦筋を内側とする。配筋は標準配筋図S-C耐力壁に準ずること。

符号	W10-W12	W18	EW18	EW20	W25-KW25	W25A	W30
厚	100-120	180	180	200	250	250	300
水平断面							
縦筋	D10@200	D10@200*ブル	D10@200*ブル	D10@150*ブル	D13@200*ブル	D13@200*ブル	D13@200*ブル
横筋	D10@200	D10@200*ブル	D10@200*ブル	D10@150*ブル	D13@200*ブル	D13@200*ブル	D13@200*ブル
巾止め筋		D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000
開口補強	縦筋	1-D13	2-D13	—	—	2-D19	—
	横筋	1-D13	—	—	—	2-D19	—
	斜め筋	1-D13	—	—	—	2-D13	—
備考	W10上下端はスラブに定着						

※ 既設部分を示す。

株式会社 ERCデザイン	株式会社 岩崎設計事務所	東浦住宅建築工事 (第19工区)	図面番号
構造設計一級建築士証交付番号 第3860号	一級建築士登録 第66771号 岩崎 征一	西棟 小梁・スラブ・壁リスト図	縮尺 1/50
一級建築士登録番号 第256338号 池田 寛彦	設計 H25年2月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

中空スラブ標準仕様書

1. 適用範囲

- 本仕様は鉄筋コンクリート又は鉄骨鉄筋コンクリートの建築物の中空スラブ工法に適用する。
- 本設計図面は鋼製フィンディングパイプ使用（以下パイプ）を前提として設計されたものであり、他のパイプに適用することはできない。
- 各項に対して別図などで詳細指示がある場合は、それに従うこと。

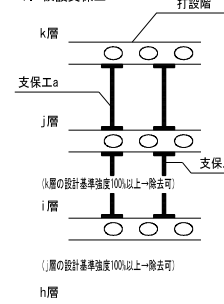
2. 使用部材

部材名称	材質	規格および材質
パイプ	亜鉛めっき鋼板	JIS-G3302 SGCC (相当品)
		JIS-G3313 SECC (相当品)

3. 中空スラブの施工

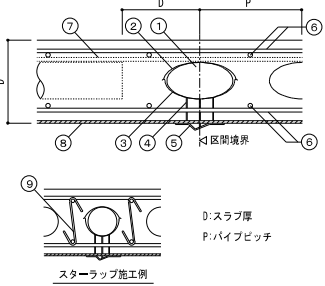
- 中空スラブの施工は下記に示す内容に準ずること。
- 日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規程・同解説」
 - 日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事」
 - (社)公共建築協会「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」
- 監理者の許可無くパイプ割付を変更しないこと。

4. 仮設支保工



- 支保工の盛り替えは、行わないこと。
- 支保工の存置期間は、設計基準強度の100%以上のコンクリートの圧縮強度が得られたことが確認されるまでとするが、構造計算により十分な安全が確認されるまでとする。（コンクリート打設4週間以上が望ましい。）
- 多層の場合には、支保工二層分で打設層のスラブを受ける様に、打設層スラブ（k層）が上記の（2）を確認したうえで、支保工bを除去できる。
- スラブ下の支保工を早期取り外しすると、有害なたわみの原因となるので留意のこと。
- 上記以外については、J A S S 5（日本建築学会）に従う。
- 上記記載なき支保工計画については、監理者の承諾を得ること。

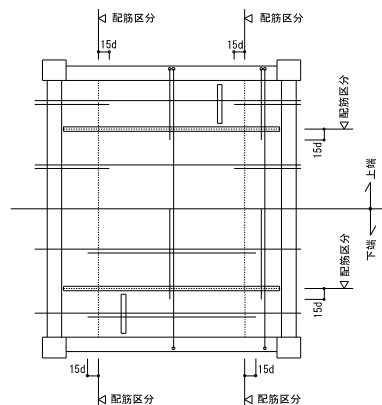
5. 中空スラブ標準構成図



符号	名称
1	パイプ
2	巻線
3	受金物
4	受台
5	ウェッジ
6	スラブ筋
7	スペーサー筋
8	変付
9	スターアップ(巾止め筋)

※左図は構成図例を示す。従って、詳細構成パイプ寸法・鉄筋かぶり・スペーサー筋有無・スターアップの有無等は、別途スラブリスト、中空スラブ断面図等を参照のこと。

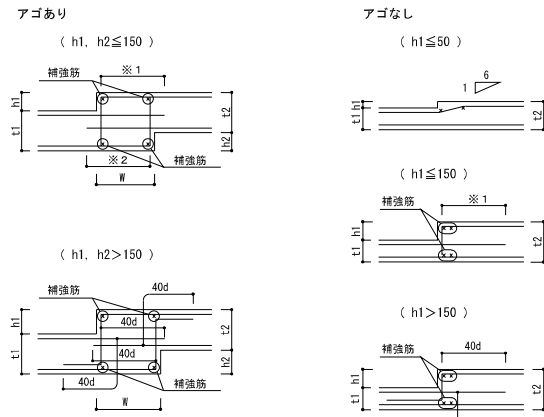
6. 配筋要領図・余長



7. 段差部配筋要領図

コンクリート強度により継手、定着長を変更する場合は監理者の指示によること。

(a) 相互定着形式

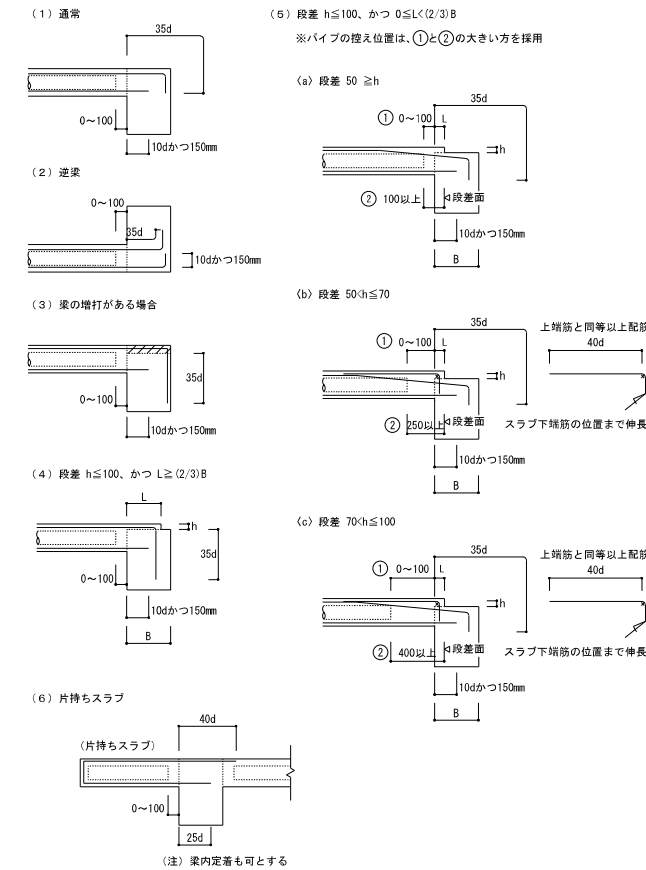


(b) スターアップ形式

- d は鉄筋の呼び径とする。
- 補強筋までは各々のスラブ配筋を行う。
- 定着長さは鉄筋交差からの長さとする。
- ※1印の継手長さは40dかつ5h以上とする。
- ※2印の継手長さは40dかつ5h2以上とする。
- W = L + h2 を原則とする。
- 各部 h1法、W1法は設計図に依る。

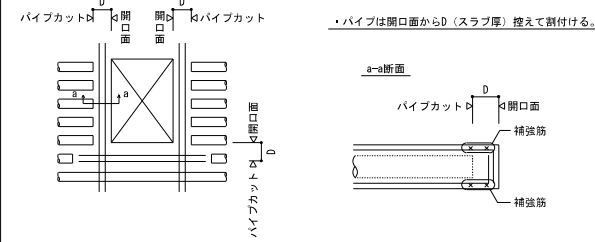
8. 大梁定着配筋要領

コンクリート強度により定着長を変更する場合は監理者の指示によること。
※h>100の場合は、監理者の指示によること。



9. 開口割付・補強要領

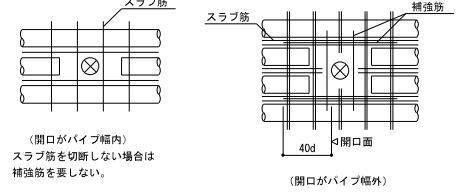
割付要領



補強要領

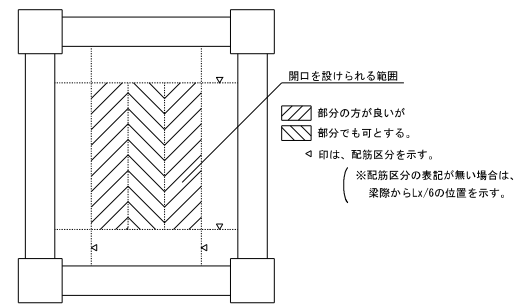
- 設計図に指示がない開口に適用する。
- 切断される鉄筋の総断面積（本数）以上を左右に振り分けて補強筋として配置する。（上端、下端共）但し、各々の補強筋は片側D13以上とする。（別途指示がある場合は、それに従うこと。）
- 鉄筋本数の多い場合は鉄筋径を大きくし本数を少なくしてよい。
- 開口補強筋は開口まわりに配筋する。開口まわりにスラブ筋がある場合は、スラブ筋とのあきをとること。

開口幅 ≤ パイプ幅のとき



（開口がパイプ幅内）スラブ筋を切断しない場合は補強筋を要しない。

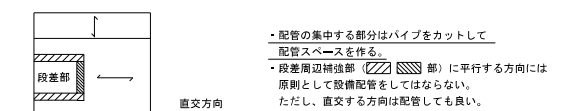
10. 仮設開口



10. 仮設開口

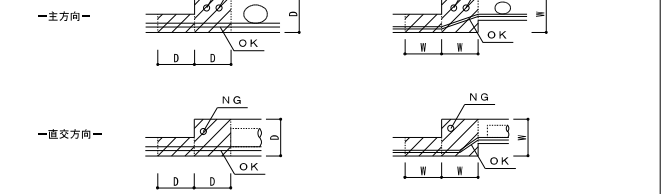
- 長方形開口は原則としてパイプ方向に向ける。（パイプ方向と直交する場合は、ウェブ部分の切断が多くなるため補強筋量が多くなることを考慮すること）
- 断面部は傾斜をつけるか又はEXPメタル等で付着性能を確保する。
- 補強筋は「9. 開口補強要領」によること。
- 切断される鉄筋の総断面積（本数）以上を左右に振り分けて補強筋として配置する。（上端、下端共）但し、各々の補強筋は片側D13以上とする。（別途指示がある場合は、それに従うこと。）

11. 中空スラブ内設備配管

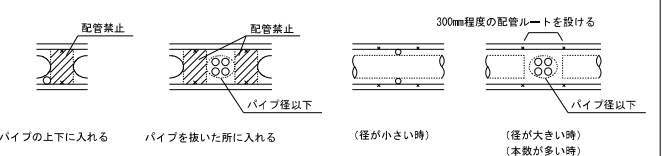


- 配管の集中する部分はパイプをカットして配管スペースを作る。
- 段差周辺補強筋（斜線部）に平行する方向には原則として設備配管をしてはならない。ただし、直交する方向は配管しても良い。

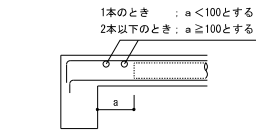
配管禁止部分



パイプに平行する場合



一並ぎわ配管

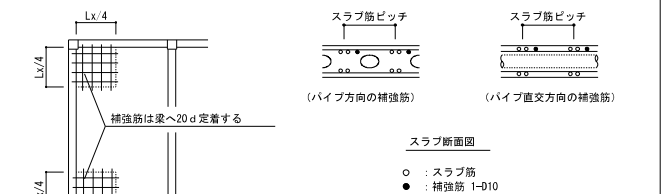


一電気ボックス部



（電気ボックスとスラブ筋当たる場合）スラブ筋位置を微調整し切断しないようにするか、切断した場合は切断分を重ね継ぎ手としてスラブ筋を設けること。但し、監理者の承諾により、1/6勾配にて折り曲げ可とする。

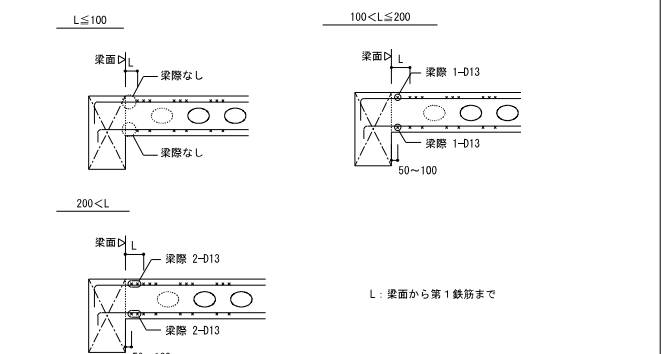
12. 隅角部の補強要領

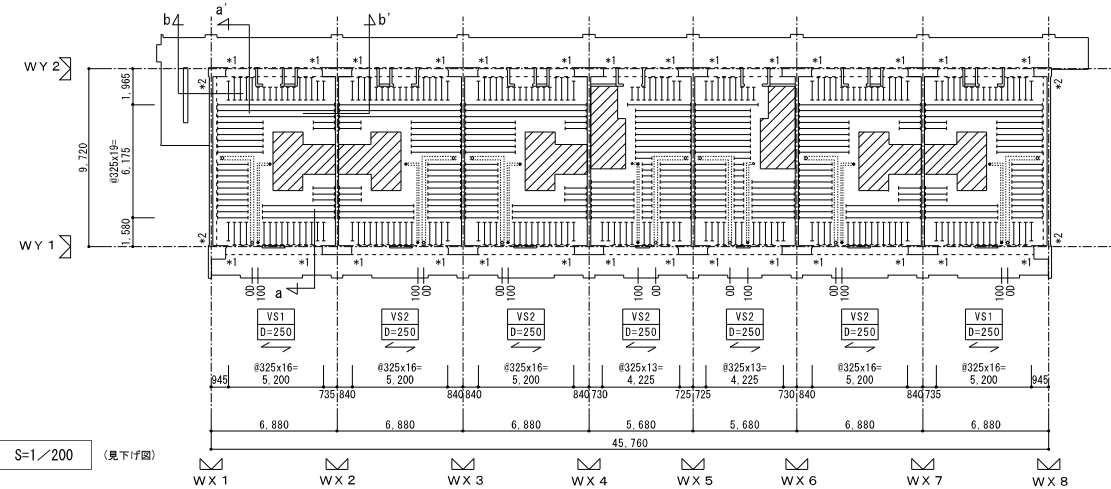


スラブ断面図
○ : スラブ筋
● : 補強筋 1-D10
□ : 全周 隅角部

実際のパイプ配置に応じて補強筋の位置を調整すること。又、別途指示がある場合は、それに従うこと。

13. 梁際中空スラブ配筋要領



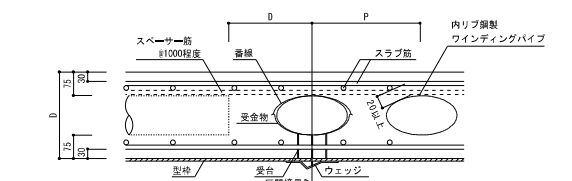


- 特記なき限り下記による
- 中空スラブ表記
 - ← は主筋方向を示す。
 - はパイプ径φ-200x100を示す。
 - 中空スラブ天端レベル
 - Zn ± 0 を示す。(D=250)
 - Zn - 100 を示す。(t=150)
 - 中空スラブ補強
 - +1, +2 は周辺受梁ねじれ補強位置を示す。
 - その他
 - 100 : 硬質塩化ビニル管 (薄肉) φ-100
 - OD : オーバルダクト φ-190 x 100
- 中空スラブ断面配筋
a-a' 主筋方向断面 b-b' 配力筋方向断面 位置を示す。

2~9階 中空スラブ伏図 (西棟) S=1/200 (見下り図)

中空スラブリスト S=1/30 (註) 1.スラブ筋の定着要領は、中空スラブ標準仕様書 8 を参照。 中空スラブ施工断面図

記号	VS1						VS2							
	φ-200x100													
方向	主筋方向						配力筋方向							
位置	外端		中央		内端		両端		中央		両端		中央	
	A	C	B	D	A	C	D	C	B	A	A	C	B	D
断面														
上端筋	2-D10+1-D13	2-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	2-D10+2-D13	2-D10+2-D13	1-D10+1-D13	1-D13	2-D10+2-D13	2-D10+2-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D13
下端筋	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	2-D10+1-D13	2-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13



詳細リスト Dはスラブ厚、Pはパイプピッチを示す。

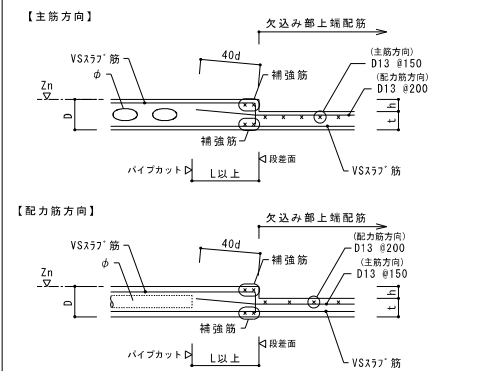
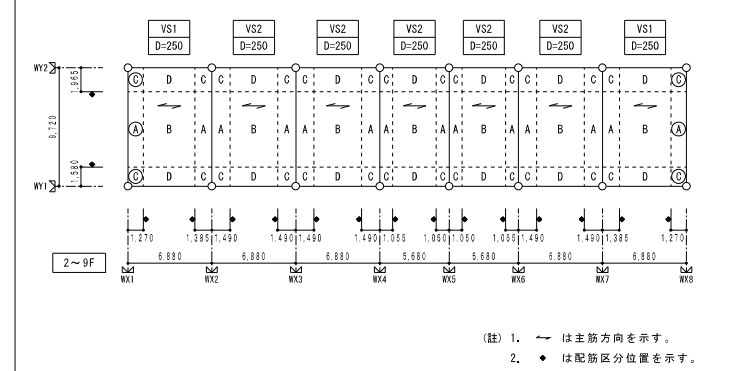
符号	D	P	パイプ径	備考
VS1, VS2	250	325	200x100	

- (註) 1.パイプは、任意長さとする。
2. 図はウエッジによる受台固定を示す。但し、監理者の承認を得た固定方法の変更は可能とする。
3. 鉄筋の外かぶり、鉄針かぶり厚さ(施工公差10mm含む)を示す。
4. スベークー筋で鉄筋かぶりの確保が困難な場合は、止め筋等により確保すること。

中空スラブ 配筋範囲

中空スラブ 欠込み部 補強要領 (Zn-100 : t=150)

中空スラブ 周辺受梁ねじれ補強要領

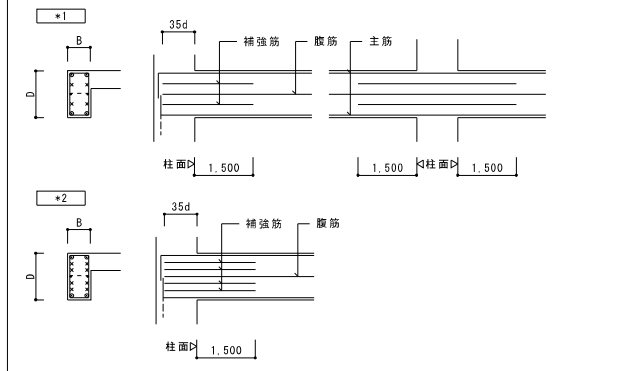
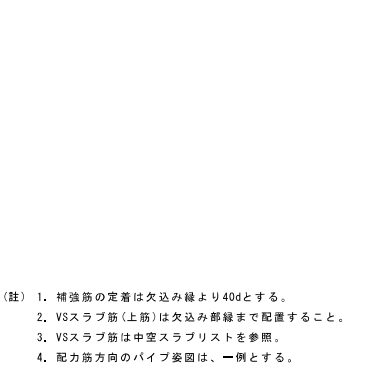


段差部配筋リスト

位置	Zn-100
上端筋	D13 #150
主筋方向	D13 #150
配力筋方向	D13 #200
補強筋 (上下筋)	2-D13

詳細リスト 単位 (mm)

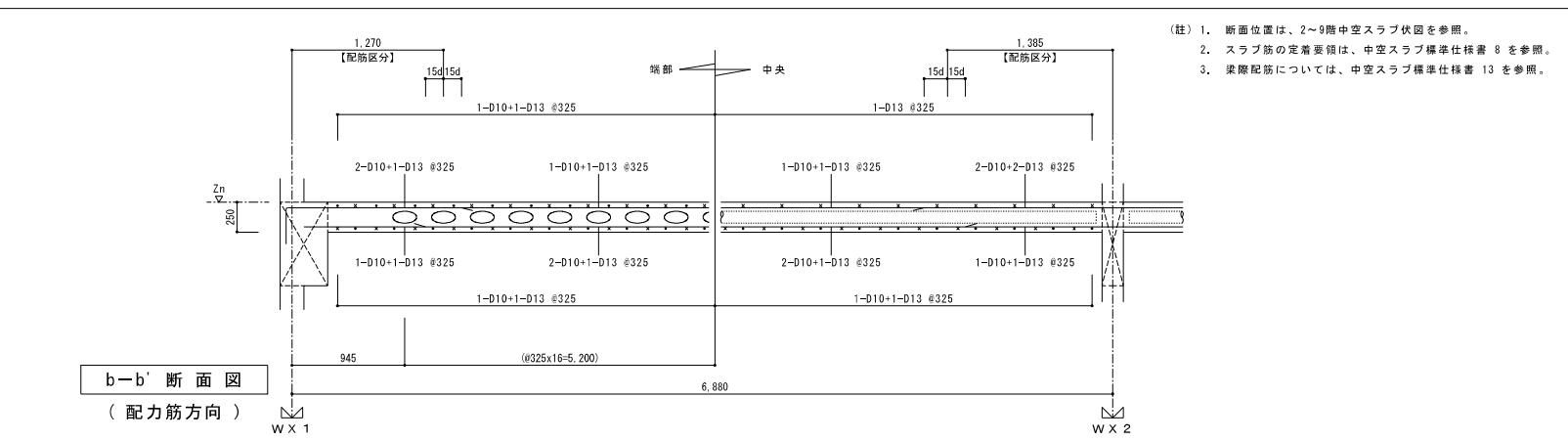
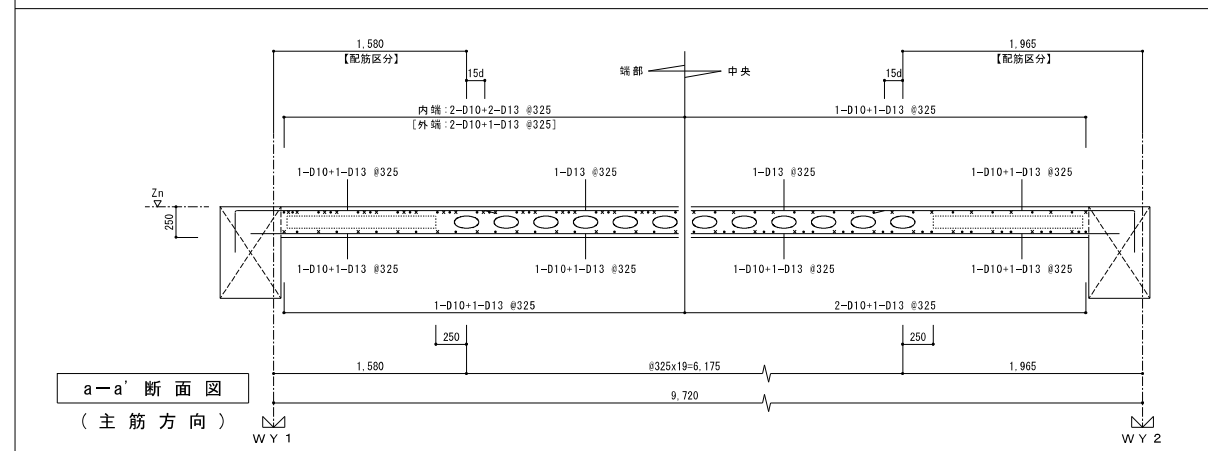
スラブ符号	単位 (mm)
一般部スラブ厚	D 250
パイプ	φ 200x100
欠込み寸法	h 100
残りスラブ厚	t 150
パイプカット範囲	L 550



B x D	大梁リスト参照	備考
腹筋	+1 4-D13	2段
補強筋	+2 8-D13	4段

- (註) 1.補強位置は中空スラブ伏図を参照。
2. ねじれ補強筋の定着は柱内に35dもしくは通し筋とする。

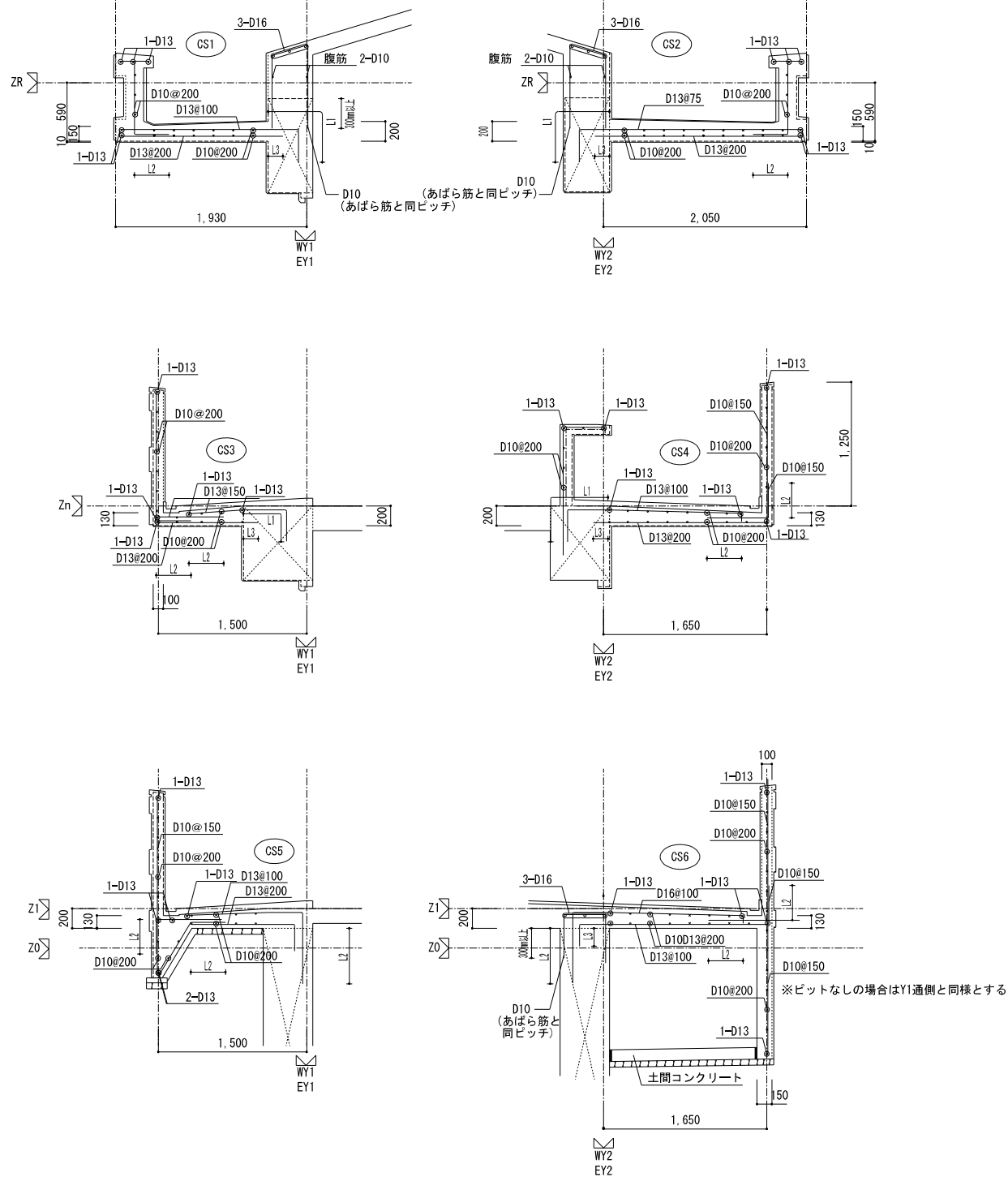
VS1 断面配筋図 S=1/30 (註) 特記なき限り ワインディングパイプ φ-200x100 を示す。



- (註) 1. 断面位置は、2~9階中空スラブ伏図を参照。
2. スラブ筋の定着要領は、中空スラブ標準仕様書 8 を参照。
3. 染戻配筋については、中空スラブ標準仕様書 13 を参照。

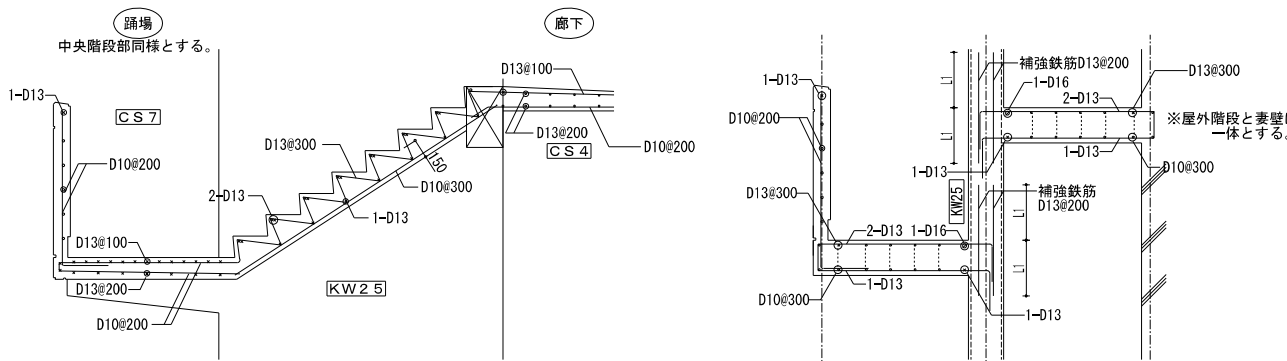
片持ちスラブ 配筋詳細

1/30



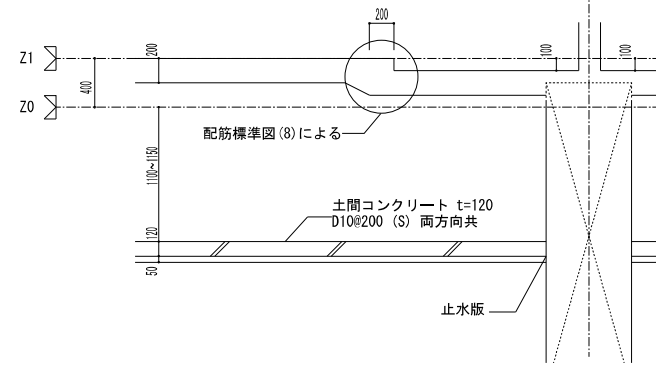
階段 配筋詳細

1/30



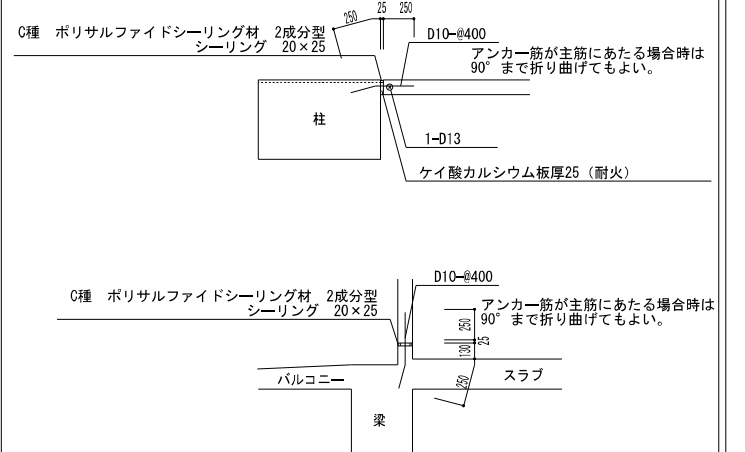
ピット 配筋詳細

1/30



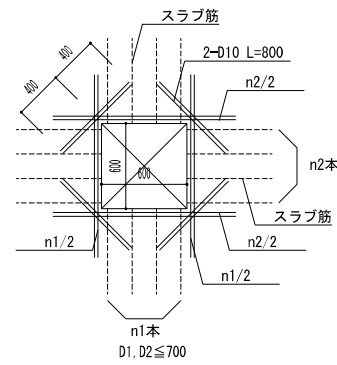
構造スリット (完全スリット)

1/30



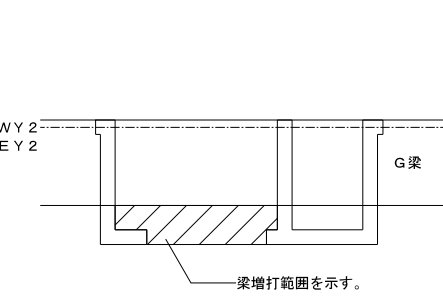
スラブ開口の補強

1/30



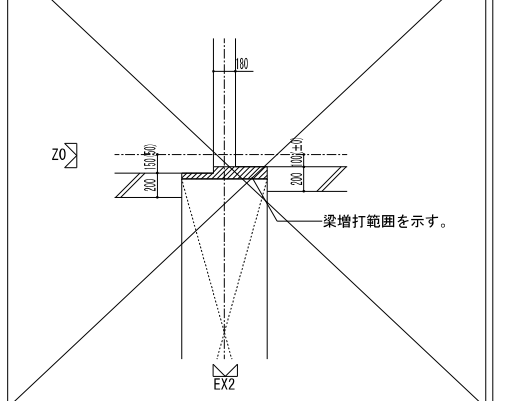
住居内梁増打範囲 (Z2~Z3)

1/30



EY2通 基礎梁上部増打範囲

1/30

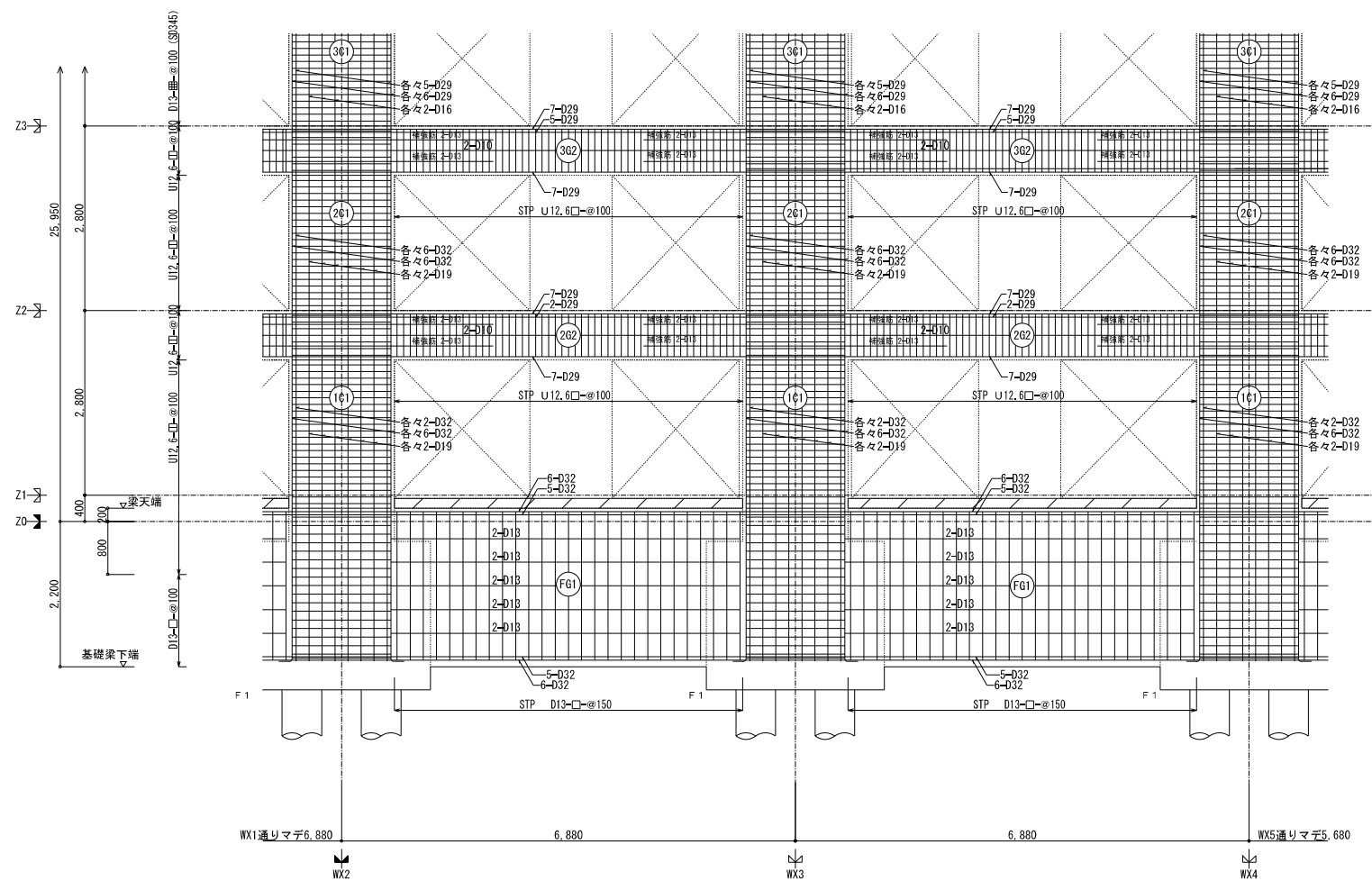
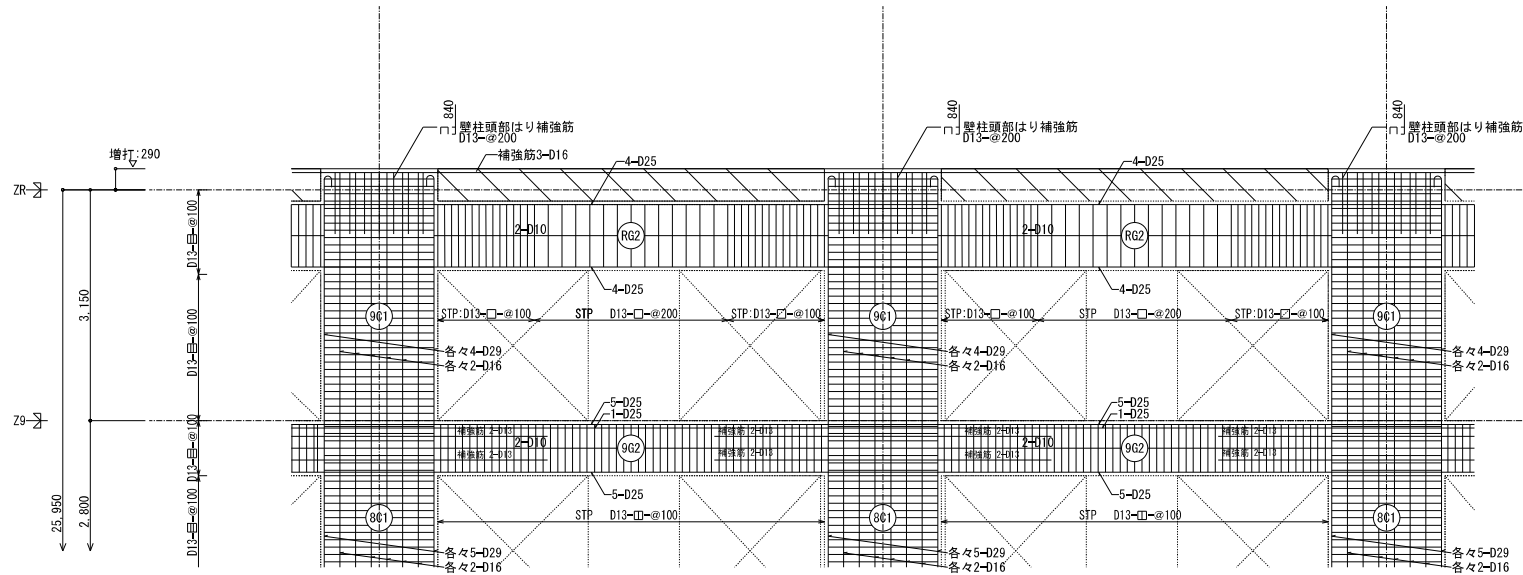


スリブ記号	径	梁符号	梁幅B	梁成D	配筋種別
人通孔	600φ	FG3, 4	700	2, 400	H10
a	100φ	G1~3	450~700	750~950	H8
c	150φ	FG3, 4, FCB1	700	2, 400	H3
c	150φ	G1~3	450~700	750~950	H8
d	175φ	FG3, 4	700	2, 400	H9
e	200φ	FG3, 4, FCB1	700	2, 400	H9

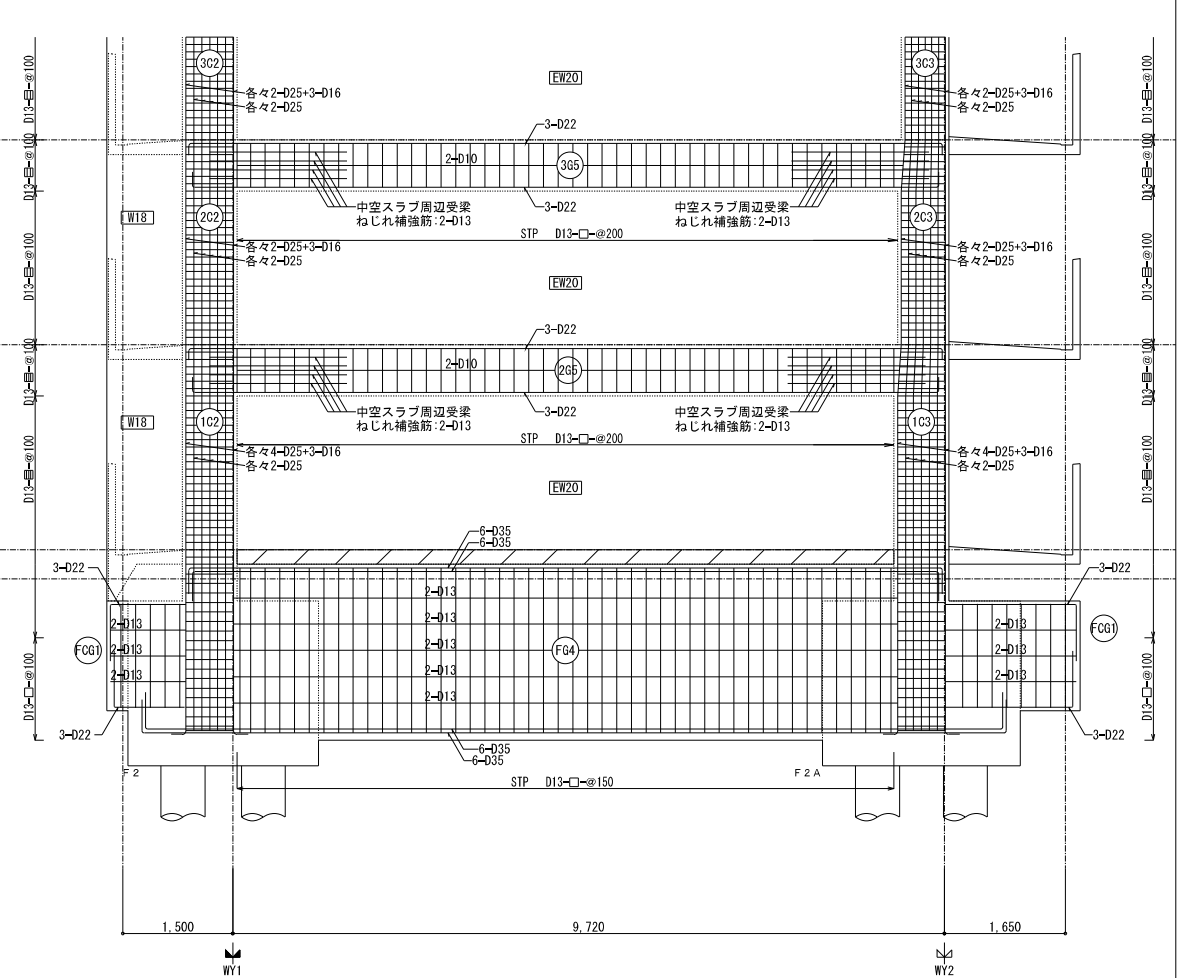
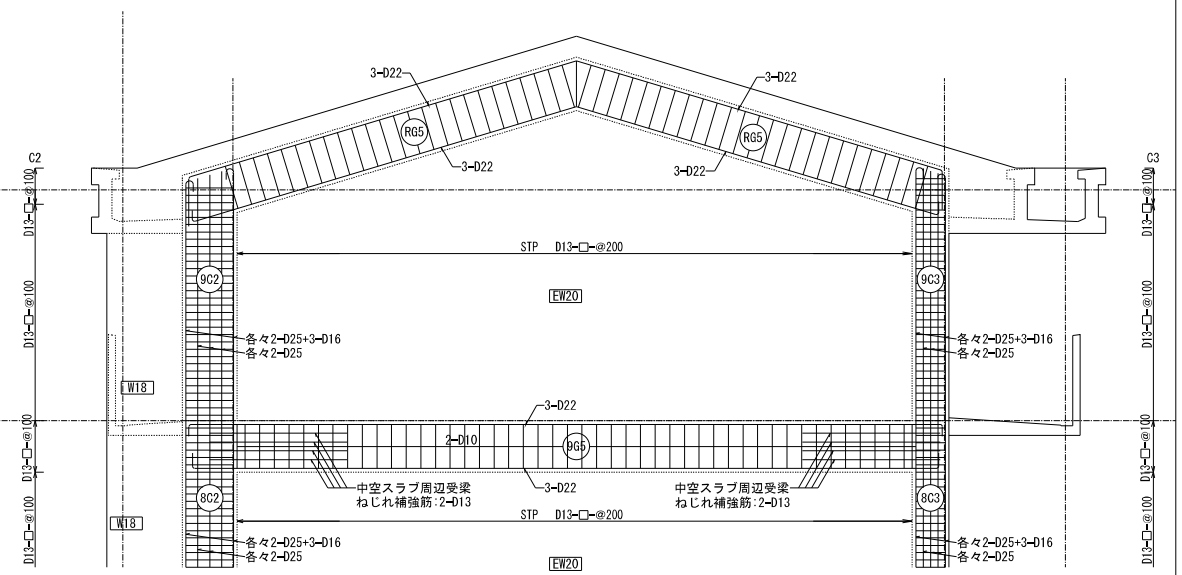
梁貫通孔の補強					配筋図
配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	
符号	A	B	C	D	縦筋・上下鉄筋Dは、あばら筋とする
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	一部あばら筋
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	一部あばら筋
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	一部あばら筋
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H8	4-2-D25	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	一部あばら筋
H9	4-2-D29	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H10	6-2-D29	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	

\ast \square 既設部分を示す。

株式会社 ERCデザイン	株式会社 岩崎設計事務所	東浦住宅建築工事 (第19工区)	図面番号
構造設計一般建築士証交付番号 第3660号	一般建築士登録 第66771号	西棟	縮尺 1/30
一般建築士登録番号 第256338号 池田 寛彦	岩崎 征一	詳細図	
設計 N25年2月	監 同	愛知県建設部建築 局公営住宅課	



WY1通り架構詳細図 1/50



WX1通り架構詳細図 1/50

注) 特記なき限り下記とする。
 1. 壁はW12とする。
 2. 斜線部分は、梁+350増打を示す。
 3. 点線部分は、梁+200増打を示す。
 4. R階 G11, G12, G13の壁柱フェースから1.50の範囲のSTPは□-D13@100以下とする。

株式会社 ERCデザイン	株式会社 岩崎設計事務所	東浦住宅建築工事 (第19工区)	図面番号
構造設計一級建築士証交付番号 第3860号	一級建築士登録 第66771号	西 様	縮尺 1/50
一級建築士登録番号 第256338号	岩崎 征一	架構配筋図	S-16
池田 寛彦	設計 H25年2月	愛知県建設部建築 局公営住宅課	